

新型コロナウイルス感染症が終息するまでの間、各能楽堂及び、公演主催者・稽古等での利用者においては、
本ガイドラインを活用した感染防止策に積極的に取り組んでいただきたいと思います。

能楽堂における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン

令和2年5月29日
公益社団法人能楽協会

本ガイドラインは、能楽堂の再開に向けて、国の方針を踏まえた新型コロナウイルス感染拡大予防策の基本的事項を整理したものです。

策定にあたっては、5月14日に公益社団法人公立文化施設協会が公開した「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を踏まえ、公演主催者等が取り組むべき事項についても参考に整理しています。

尚、記載事項が必須条件ではありませんので、各能楽堂の状況に応じた対応をお願い致します。

又、能楽堂が活動を再開するかどうかの判断にあたっては、引き続き、その能楽堂が所在する都道府県の知事からの要請等を踏まえ、適切に対応いただきたくお願い致します。

※「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」（令和2年3月28日（5月4日変更）新型コロナウイルス感染症対策本部決定）を踏まえ、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」（令和2年5月4日）において示された“業種ごとのガイドライン作成”の求めに応じて整理したものです。必要に応じて適宜改訂を行います。

1. 感染防止のための基本的な考え方

能楽堂を管理・利用する際は、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、各々最大限の対策を講じる必要があります。

特に、3つの密（密閉・密集・密接）を回避することが重要であり、感染症の主な感染経路である「接触感染」と「飛沫感染」のそれぞれについて、利用者の動線や接触場所などを洗い出し、そのリスクに対処した取り組みが必要となります。

能楽堂においては、これまでクラスターは発生しておらず、公演中、観客は一方向を向き対面による会話等が原則想定されないことも踏まえて、以下のような対策に取り組む努力をお願い致します。

2. 感染リスクの洗い出し

① 接触感染のリスク

他者と共有する物品やドアノブなど手が触れる場所を特定する。

高頻度接触部位（テーブル、椅子の背もたれ・肘掛、ドアノブ、電気のスイッチ、電話、キーボード、タブレット、タッチパネル、レジ、蛇口、手すり、エレベーターのボタン、券売機、車椅子等の貸出機材等）には特に注意する。

② 飛沫感染のリスク

能楽堂内の換気の状態を考慮しつつ、人と人との距離や位置、方向、施設内で大声での対話等が頻発する場所がどこにあるかなどを把握する。

3. 能楽堂内の各所における感染防止策

① 見所・ロビー等を含む能楽堂内

- ・ 不特定多数が触れやすい場所の消毒。
- ・ 手洗い・手指消毒を励行し、手指消毒用の消毒液を入口に設置。
- ・ 会場内の定期的な換気（公演の前後や休憩中）。
- ・ 対面での飲食や会話を回避するよう促す（表示や館内放送等）。
- ・ スタッフ及び利用者は、マスク着用と手洗い・手指消毒を徹底。

② 楽屋、控室

- ・ 対面での飲食や会話を回避するよう促す（表示等）。
- ・ 人と人との距離を十分確保するよう促す（表示等）。
- ・ 手洗い・手指消毒を励行し、手指消毒用の消毒液を入口に設置。
- ・ 常時換気に努める。
- ・ 不特定多数が触れやすい場所の消毒。
- ・ 使い捨ての紙皿やコップ等の使用。

③ チケット窓口

- ・ アクリル板や透明ビニールカーテンの設置。
- ・ 現金の取扱いをできるだけ減らす努力をする。

④ トイレ

- ・ 不特定多数が触れやすい場所の消毒。
- ・ トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示する。
- ・ ハンドドライヤーや共通のタオルの使用は行わない。
- ・ 最低1m（できるだけ2mを目安に）の間隔を空けて整列するよう表示。

⑤ 食堂、ショップ等

- ・ 常時換気に努める。
- ・ 現金の取扱いをできるだけ減らす努力をする。
- ・ 食器、テーブル、椅子等の消毒の徹底。
- ・ 利用者が密にならないよう座席配置を工夫する。
- ・ 従業員は、マスク着用と手指消毒を徹底。利用者の手指消毒も呼び掛ける。
- ・ ユニフォームや衣服はこまめに洗濯するよう努める。
- ・ 対面で販売を行う場合、アクリル板や透明ビニールカーテンを設置。
- ・ 多くの者が触れるようなサンプル品・見本品は極力取り扱わない。

⑥ 清掃・ゴミの廃棄

- ・ 清掃やゴミの廃棄を行う者は、マスクや手袋の着用を徹底。
- ・ 作業を終えた後は、手洗いを行う。

⑦ 保健所との関係

- ・ 感染予防対策及び感染の疑いのある者が発生した場合には速やかに連携が図れるよう、所轄の保健所との連絡体制を整える。

4. 公演主催者が実施する感染防止策

以下は参考として掲げるものです。

舞台上における感染防止策については、各公演主催者が、番組内容や各流儀の考え等を十分に踏まえ、安全に考慮しつつ「総合的に判断」し、能楽堂管理者とも協力して実施して下さい。

(1) 公演前

- 密集を回避する工夫をする。例えば、
 - 開場・休憩時間を長めに設定
 - 十分な座席の間隔を確保（市松模様のように前後左右を空ける、一定の距離を置く等）
 - 着座可能な席を予め指定しておく
 - 最前列席は舞台から十分な距離を取る
 - 券種やゾーンごとの時間差での入場、退場等を行う
- 来場者、出演者、スタッフへは、以下事項につき事前に周知する。
(公演HP、公演チラシ、チケット券面、能楽堂入口などに明示)
 - マスク着用、手洗い・定期的な手指消毒の要請
 - 来館前の検温実施要請
 - 来館自粛を求める条件を明示
 - ① 37.5℃以上の発熱がある場合
 - ② 下記の症状がある場合
咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、味覚・嗅覚障害、
目の痛みや結膜の充血、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐
 - ③ 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がある場合
 - ④ 過去2週間以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域への訪問歴及び当該在住者との濃厚接触がある場合 等
 - ある場合は、能楽堂ごとの対応方針も周知
- 現金の取扱いをできるだけ減らす工夫をする。（オンラインチケットやキャッシュレス決済等）
- スタッフの氏名・緊急連絡先を把握する。
- 導入が検討されている接触確認アプリ等を活用する場合、その旨も事前に周知する。

(2) 公演当日

- 来場者に対応する窓口、もぎり、ホールスタッフ等は、マスク着用、手洗い・手指消毒を徹底する。
更に、状況に応じた手袋、フェイスシールドの着用も望ましい。
※来場者が自分で半券を切って箱に入れ、公演主催者がそれを目視で確認するといった方式等もぎりの簡略化の導入も検討する。
- 来場者に対して、マスク着用、手洗い・定期的な手指消毒を要請する。
 - 最低1m（できるだけ2mを目安に）の間隔を空けた整列を促す。
 - パンフレット等の配付物は手渡しで配付せず据置き方式とする。
 - 場内における会話は控えていただくよう周知する。
 - 公演の前後及び休憩中に、会場内の換気を行う。
 - 貸出物について十分な消毒を行う。

- ・ 出演者に対して、楽屋内での公演前後のマスク着用、手洗い・定期的な手指消毒を要請、又、対面での飲食や会話の禁止、十分な換気も呼び掛ける。
- ・ 能楽堂の近隣住民に対して配慮する。（来場者の滞留を防ぐため、速やかな移動を促すなど）

(3) 感染が疑われる者が発生した場合の対応策

- ・ 感染が疑われる者が発生した場合、速やかに別室へ隔離する。
- ・ 対応するスタッフは、マスクや手袋の着用を徹底する。
- ・ 速やかに、医療機関及び保健所へ連絡し、指示を受ける。

5. 稽古等での利用者が実施する感染防止策

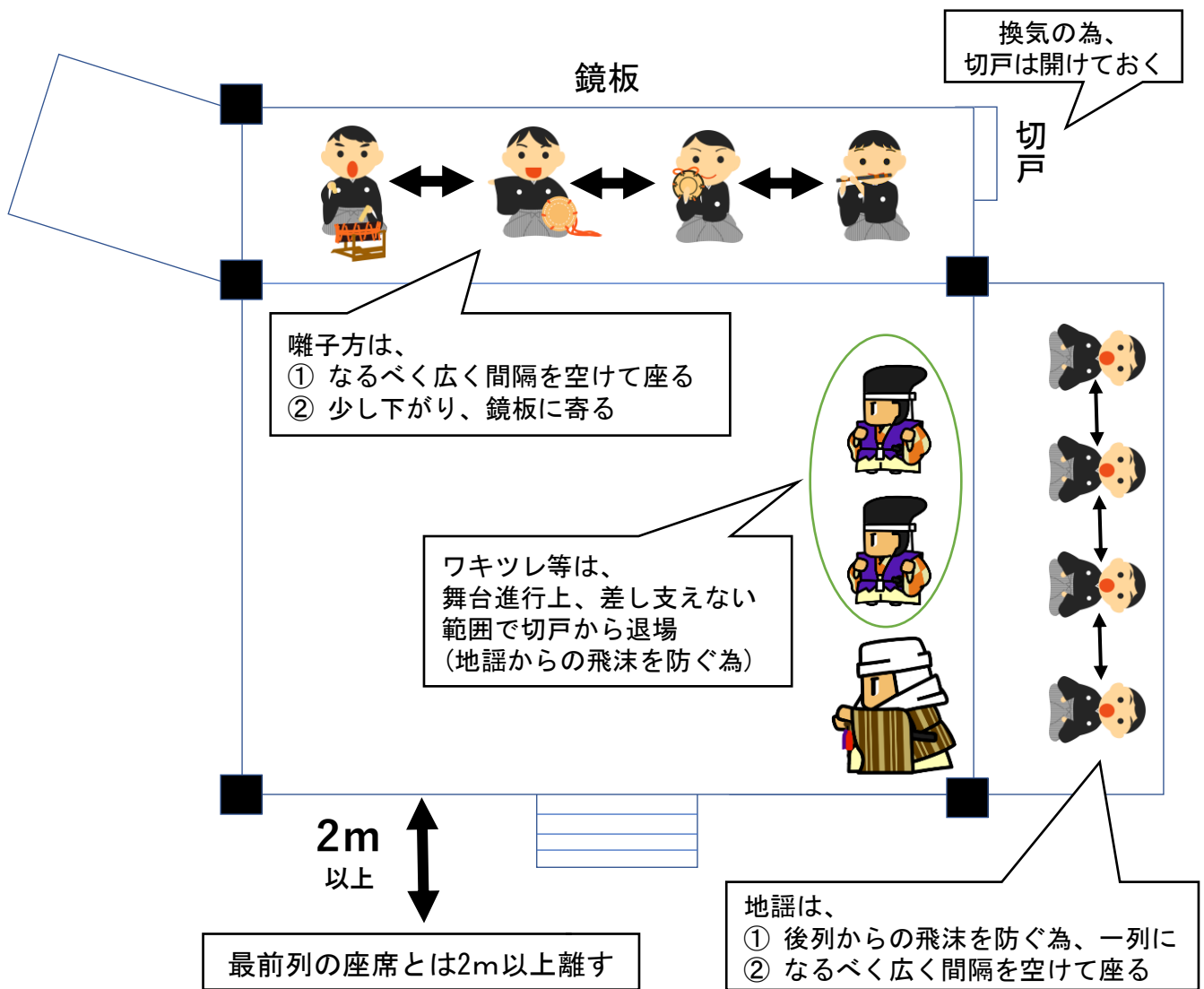
以下は参考として掲げるものです。

- ・ 対面での稽古は、十分な距離をとる。
- ・ 舞台上や楽屋では密集を避け、人と人との距離を十分確保するよう努める。
- ・ お互いの感染を避けるため、玄人稽古・素人稽古問わず、最大限配慮をする。

- ・ 常時換気を行う。
- ・ マスク着用、手洗い・定期的な手指消毒を行う。
- ・ 接触感染、飛沫感染を回避する工夫をする。
- ・ 来館前の検温実施のほか、以下の場合は来館を自粛するようお互いに呼び掛ける。
 - ① 37.5℃以上の発熱がある場合
 - ② 下記の症状がある場合
咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、味覚・嗅覚障害、
目の痛みや結膜の充血、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐
 - ③ 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がある場合
 - ④ 過去2週間以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域への訪問歴及び当該在住者との濃厚接触がある場合 等
- ・ 対面での飲食や会話の禁止、十分な換気を呼び掛ける。
- ・ 利用者が密にならないように人数制限等に配慮する。
- ・ 感染が疑われる者が発生した場合、速やかに別室へ隔離し、医療機関及び保健所へ連絡して指示を受ける。

舞台上の「密」回避 実施例

あくまでもイメージしていただく為の例です。



大切なことは、「飛沫によるリスク回避」です！

日常生活においても人と人の距離を取ることが求められており、舞台上での3密対策は必須です。

謡や掛け声等の飛沫が、観客にはもちろん演者同士にもかからないよう十分ご配慮いただく必要があります。

【ご参考 ①】

あるオーケストラでは…

- ・弦楽器は1.5m、管楽器とは2mを目安に間隔を広げる
- ・金管楽器の吹き出し口には不織布を装着

などの対応をしているようです。

【ご参考 ②】

能楽協会では、チケット券面に以下を記載します。HPやチラシ等、スペースがある場合は、ガイドラインを参考に詳細情報を記載下さい。

- ・館内では、マスク着用をお願い致します。
- ・来館前の検温実施、入口での手指消毒にご協力下さい。
- ・発熱・咳などの症状がある場合は、ご来場をお控え下さい。
- ・今後の状況により、公演を中止、内容を変更する場合がございます。